

式 辞

雪解けも進み、木々の蕾は確実に春に向けてふくらみ始めています。この春の佳き日に、美香保中学校を巣立っていく73名の3年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。心から祝福いたします。

また本日は、PTA会長様をはじめ、学校評議員、地域や町内会の皆様、美香保小学校、北光小学校の校長先生など多くの御来賓の皆様、並びに保護者の皆様の御臨席を賜り、このように盛大に、第七十五回卒業証書授与式を行えますことを心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さんが学校祭の時に制作した壁画の前で、ただいま一人一人に卒業証書を授与いたしました。手渡した卒業証書は、皆さんが中学校の課程を立派に修了したことを証するものであり、義務教育の締めくくり3か年の努力の成果がしっかりと修められた大変重みのあるものです。凜とした空気の中、卒業証書を受け取る皆さんの、若く透き通った眼差しや、こうして私の話を聴いている真摯な姿勢に頼もしさを感じます。

それは、皆さんが、「感謝の心」「仲間と共に粘り強く挑んできた過程」を胸に深く刻んでいるからだと思います。

卒業生の皆さん、改めて、今までの中学校生活、いや、人生を振り返ってみてください。親に命を授かってからというもの、あなたは多くの人に守られ、支えられ、愛情をそそがれて今ここにいます。与えられた多くの幸せによって今ここにいます。

そう考えた時、「生きる」とは、生かされてきた結果だと思いませんか。「ああ、今ここに自分が存在するのは、家族、先生、友達、誰々のおかげ。」と、「感謝の心」が湧いてきませんか。それこそあなたが今日この卒業式で表現する〈ありがとう〉なのだと思います。そんな「感謝の心」を真に抱くことができた時、その分あなたは心が強く、たくましくなります。なぜならその時とは、今まで自分を生かしてくれた人の思いが自分の大きな力になった時だからです。やがてその力は人を生かす力となります。そういう力がもうあなたにはあるのです。

後輩たちにバトンとして残してくれたものはたくさんありますが、その最たるものは、自分たちの思いや願いを自ら実現していく「**自主的な活動**」そのものだと私は感じています。皆さんとは、たった1年の出会いでしたが、この間、私は、皆さんが創り出す一体感からたくさんの感動をもらいました。この一体感は、外見も、性格も、考え方もそれぞれ違う皆さんが、「自主的な活動」を通して、お互いに本気で向き合い、共に粘り強く挑んできた証と言えます。

皆さんが、圧巻の歌声を響かせた合唱コンクールで、最後に私はこう伝えました。「真の金賞は3月に決まります。3月、最後に、みんなが、『あなたと出逢えて良かった。』『この学級で良かった。』『この学年で良かった。』『美香保中で良かった。』と、そう思えたら、その時こそ、真の金賞を手に入れた時です。」

皆さんにとって、「仲間と共に粘り強く挑んできた過程」のピークはまさしく今日です。皆さんの頼もしい姿から、一人一人の心の中に**真の金賞**が輝いているものと、私は確信しています。

「新たな夢を探しに行こう 僕らの旅はまだまだ続く」

これは、学校祭で皆さんが創り上げた演劇「夏休み～星に願いを」の最後のセリフです。

まさしくこれから、新たな人生の旅を続ける皆さんに、はなむけの言葉を贈ります。

「上善は水の如し」これは、中国の哲学者“老子”が残した言葉です。老子は、水には学ぶことのできる三つの性質があると説いています。一つ目は、水には器に逆らうことなく形を変える〈柔軟さ〉があるということです。二つ目は、低いところに身を置くのは誰でも嫌なものです、水には低いところに流れていく〈謙虚さ〉があるということです。そして、三つ目は、水には、〈秘めたるエネルギー〉があるということです。穏やかな流れは、人の心を癒す力をもっているし、また速い流れは、硬い岩をも砕く力強さをもっています。

皆さん、水のように、「しなやかな強さ」を発揮して、自分や社会の未来を切り拓いていってください。

結びになりますが、保護者ならびに御家族の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。

皆様の愛情は、間違いなくお子様に通じ、今日、立派に義務教育を修了することができました。これからは、大人の社会に一步ずつ確実に近付いてまいります。温かく見守っていただくとともに、最も身近な大人として、また、人生のよき先輩として更なる御助言をこれからもよろしく願いいたします。

私どももいつまでもお子さまの健やかな成長を願い、ずっと応援団であり続けたいと思っております。保護者の皆様、そして地域の皆様に、今後も本校の教育に一層の御理解と御協力を重ねてお願い申し上げます、式辞とさせていただきます。

令和7年3月14日

札幌市立美香保中学校 校長 伊達 峰史